

快適に安心して暮らせるまちづくりを



心肺蘇生法で救命処置に当たる看護科の生徒達。救急車が到着するまでの応急処置が救命につながります

市消防本部の救急隊員と県立那覇高校衛生看護科の生徒3人による応急手当の展示訓練



一般車両を規制した国際通りをエンジョイする市民

「那覇市が進化しています」
 那覇市では、生命と暮らしが大事にされ、災害に強い、快適な生活環境をつくりだすために、活発な都市活動をささげる充実した都市機能づくりをめざしています。
 私たちが市民が便利に楽しく暮らすことができ、那覇がもつ特性を活かしたまちづくりのひとつとして「トランジットマイル」の社会実験を行っています。
 また、住民がともに支えあい、だれもが安心して暮らせるために「救急医療の強化と防災」につとめています。
 すべての人が自立して生活できる環境をつくり、障害者や高齢者にやさしいバリアフリーのまちづくりをすすめることは、まちづくりの基本です。
 だれもが住みたいと思う、魅力あるまちへと那覇市は進化してまいります。



腕を負傷した時の応急手当について説明を受ける市民



応急手当後、救急車で人が搬送



赤ちゃんのどをつまらせた時の応急処置について熱心に説明を聞く市民のみなさん



勇壮なエイサーの歓迎を受けて走るトランジットバス



身障者用コインパーキングをご存知ですか?
 泉崎バスターミナル側の歩道にパーキングスペースがありますが、そのなかに身障者用のコインパーキングも設置されています。通常の駐車スペースよりも車いすが乗り降りできる分、広いスペースがとられ、またコインを入れるメーターも、道路側でなく歩道側に向けられ、利用しやすくなっています。

人に優しいまち・歩いて楽しいまち 那覇市国際通り トランジットマイル

社会実験



ゆかいなストリートパフォーマンスに子どもたちの笑顔と拍手がわき起こりました



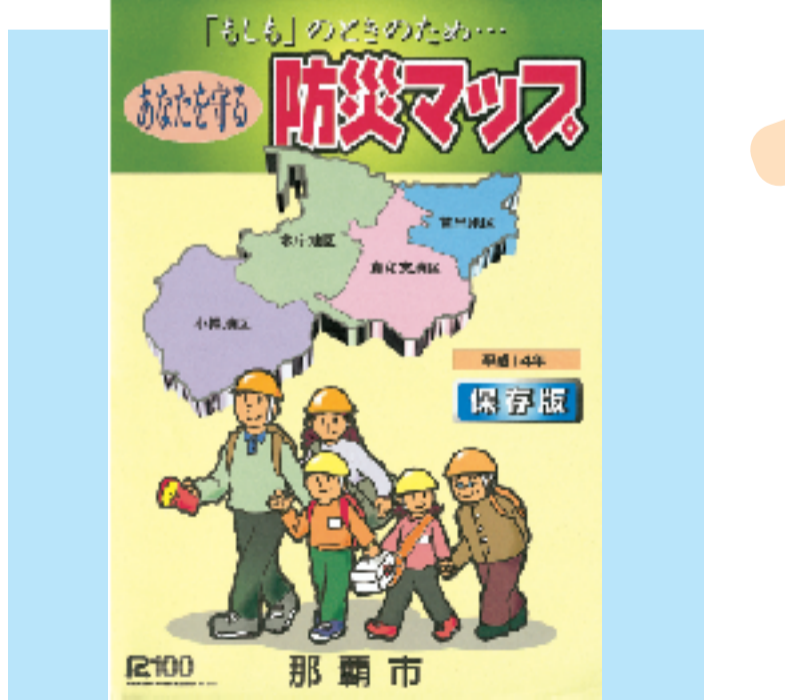
ゆとりある空間がすべての人に優しいまちをつくります
コミュニティ「いきいき」国際フォーラム
 理想とする「21世紀のコミュニティ」って何だろう？
 地域住民が自発的にコミュニティづくりに取り組み、人間にとって理想のライフスタイルを考え、環境に配慮した暮らしを実現したオーストラリアの事例を通して、沖縄をはじめ日本の地域社会が抱えている問題解決の糸口を見いだしていきます。キーワードは「コミュニティの再生」「地域通貨」



思い通りのびのびと、路面に落書きする子どもたち



人もペットのんびり歩けるまちへ



いざというときの災害にそなえて！「防災マップ」
 災害危険場所や避難場所、その他に関係する機関の連絡先などが地図に記載され、また風水害や地震に備えた注意事項もイラスト入りでわかりやすくなっています。
 地区別に本庁、真和志、首里、小禄の4地区に分けて作成しました。常日ごろから目の届く場所に「防災マップ」を置いてください。
 すでに各世帯に配布済みですが、まだの方は、本庁4階防災係、各支所窓口で差し上げます。



安い家賃で快適に新都心路那市営住宅
 先月、9月1日に入居が始まった新都心路那市営住宅。世帯数は135戸、全戸に駐車場が完備されています。
 一般向け住宅105戸、多子世帯向け住宅16戸のほか、障害者向け住宅（車いす仕様）として14戸が設けられました



障害者向け（車いす仕様）住宅。キッチンのシンク下にヒザが入るスペースを設け、インターホーン、洗面台を低めに設置するなど全面バリアフリーになっています



3ルート(くもじ/おもろまち/ひめゆり)で国際通りと周辺を結ぶトランジットバスが運行しました



おもろまちルートで新都心での買い物を楽しみ、帰りはトランジットバスで国際通りから周辺地域へ移動するトランジットバスの車内

本庁市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後6時まで開いています。(土・日、祝日を除く)

国民年金課の窓口は昼食時間(12時~1時)も受付しています。